

講演

美しさと口唇裂治療

昭和大学医学部形成外科学講座

大久保文雄

平成30年度昭和大学学士会特別講演会—医学部教授最終講義—

2019年3月16日 14:00～14:30 昭和大学病院入院棟地下臨床講堂

○司会 次の講演に移らせていただきます。形成外科学講座 大久保文雄教授より、「美しさと口唇裂治療」と題し、ご講演を賜ります。大久保先生、よろしくお願ひいたします。

○大久保 このような機会を与えてくださりありがとうございます。内科の先生の高なお話の後で形成外科の私はやや俗っぽい内容の講演になると思います。外科系は私だけのようですので、魚料理と肉料理の間のシャーベットみたいな話だと思って聞いてください。

私の今まで行ってきた主な仕事は口唇裂口蓋裂治療です。途中で美容外科に関わることになり、両方の教授を拝命しましたので、本日はこの2つの話を脈絡にとらわれずに、お話ししたいと思います。

われわれは大輪のカトレアをきれいだと思いますし、可憐なレンゲの花もきれいだと思います。イングリッシュガーデンや極彩色の皿をきれいだと感じると同時に、何も生えていない枯山水や色彩のあまりない備前焼も美しく感じます。

一方ヒトの顔に目を向けると、顔全体が大きく、顎が張っていて鼻も大きい人より、小づくりで一つの要素があまり大きくない顔のほうが何となく美しいと、私は思います。しかし、この2人では違う個人だということは認識できるのですが、どの辺がどう違うかがあまりよくわかりません。どちらが美しいかということも、私には甲乙をつけることができません。

そこで、「美しさ」とはいったい何だろうかということを考えてみました。まず美しいという漢字です。これを2つに分解すると、大きな羊になります(図1)。中国大陸から漢字が伝来しました。大きな羊は良いのです。どうしてかということ、もともとこ

れには宗教的な意味合いがあります。かつて羊は神々への生贄になっていました。大きな羊を生贄にすると神様が喜びます。すなわちとても良いという意味を持っています。また羊という字には自己犠牲を伴う崇高な意味が含まれているというふうを考えられています。例えば義務の義ですね。我(私)の中の犠牲ということで、義務は自分を犠牲にすることで成り立っているという意味を内包しているようです。

大きさをもう少し掘り下げてみます。ここに示した3名の女性は、169, 171, 174 cm, と、背の高い人です。存在感のある美しさです。あまり大きすぎるとこのように好ましくないと感じられるような人もいます。一方、背の低い人でも、このように148 cm ぐらいの人でも美しいと思われる人はいて、人の場合大きいだけでは美しさの指標にはならないようです。

「美」にもどります。昔はこれを「うまし」とい

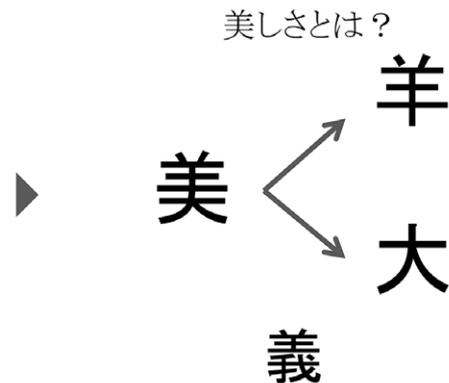


図1

うふうに読みました。ごく初期の文章に出てくる「美」です。これは舒明天皇の歌で、万葉集の第一巻の二首目に出てくる、みなさんよくご存じのものです。当時、日本に文字はありませんでした。ひらがなも発明される前ですので、大和言葉に漢字をあてて文字にしました。「山常（やまと）には 郡山（むらやま）あれと とり鎧（よろ）ふ 天の香具山（かぐやま） 登り立ち 国見（くにみ）をすれば 云々」というもので、「美し（うまし）国ぞ 蜻蛉嶋（あきつしま） 大和の国は」と結びます。とっても良い国だねっていう意味です。美味しいという意味ではありません。ですから、日本の国というのは、とってもいい感じの所だねっていうのを、舒明天皇は1300年ぐらい前に詠んでいます。歴史の流れの中で意味が変わってきているのです。

つぎに「美しい」とは、なんでであろうかというのを、哲学的に分析してみたいと思います。国語辞典を引いてみますと、「好ましいことだ。見ていて心地がよい。調和がとれている。色がきれい。」などがあります。まず調和について考えてみます。言い換えれば平均的で突出していないということでしょうか。平均的だとひとは美しいあるいは好ましい状態だと感じるようです。これは明治時代の鼻が高くなる隆鼻器無料貸出の新聞の広告です。明治時代からどうも他人より鼻が低いのは美しくない。鼻が高くなりたい。という願望がご婦人にはあったようです。この人は与謝野晶子です。左は若い頃の与謝野晶子、右はいろいろな意味で、世間を騒がせていたころの与謝野晶子です。鼻がだいぶ高くなっているのがお分かりでしょうか。与謝野晶子は明治時代に既に多分注射で鼻を高くした日本の“翔んでる”おばさんだったようです。

さらに調和を考えます。歯並びが悪い人の歯科矯正前後です。きれいな歯並びを獲得した後は、ご本人の笑顔も満面で、しかもスイカをちゃんと食べられるし、虫歯にもなりにくくなります。調和がとれていると、美しく見えるし、機能的にもよくなるんだっていうことがわかつて思います。ちなみに、左側の方はあまり調和のとれた歯並びではありません。特殊な事情で矯正をできなかった人だと思えます。

ここで皆さんに問題を出します。この2人はどちらが速く走れるでしょうか。私はこの両名ともよく知っているんです。たぶん両方の人を知らない方で

も、何となく左の人のほうが速く走れるんじゃないかっていうふうに感じると思えます。ではそれはどうしてかという理由です。

人間というのは本能的に、形態と機能は一致すると思っている訳ですね。ここで形成外科の本質に迫ります。形成外科は、形態だけではなくて機能も治す診療科であるという宣伝です。美しいものは中身もよいものだと人間は考えている訳です。従って、美しいものには好意的になり、自分もそうなりたいと思っているわけです。

この写真は天野勇吉さんというコラムニストです。もう亡くなった方ですが、自分のブログで、私の鼻はこんな低い鼻よりも、こんな高い鼻よりも、やっぱり自分の鼻が合っているんだなって、自分の顔には調和しているんだなというのを、載せていました。過ぎたるは及ばざるがごとし。平均的なものが、どうも美しいんじゃないかなっていうことになります。

このスライドは世界3大美人と言われる女性です。クレオパトラ、楊貴妃、小野小町。実際には、こんな例を挙げられると何が何だかわからなくなってきます。述べてきたように、人類学的に構成要素の大きさ、並び方を数値で表すと、平均値であるというのが1つの大きな「美しさ」の要素であるようです。

このスライドは、私の恩師である鬼塚卓彌先生の教科書から引用した図です。顔の要素の大きさや並び方を測ってみると、いろいろなところの大きさや間隔の比が1:1.6つまり、黄金比になる部分が多いということを示しています。本当にそうなのでしょうか。代表的な美人と思われる人を何人か計測してみました。その結果、黄金比にはなりません。しかし、確かに比較的黄金比に近い人で美しい人も当然います。必ずしも数値的な調和だけが「美しさ」の重要要素ではないことがわかります。

しかしながら今まで述べてきたように、人類学的に平均値であるとともに、調和がとれているというのが、どうも、「美しさ」の重要要素の一つになっているようです。調和について話を進めます。富士山、タージマホール。対称的で調和がとれています。しかし、全く対称的でなくても、盆栽や最近はやりのダメージジーンズなどもわれわれは別の意味で美しいと感じたりする訳です（図2）。



図 2

このスライドは顔面神経麻痺の人が、自分の写真撮って健側だけをひっくり返して合成したものを自身のブログに挙げていました。ヒトの顔については対称的なほうが望ましいようです。

では対称的が絶対なのでしょう。話は変わりますが、私のもう一つのテーマである、唇裂口蓋裂治療の例です。手術前の非対称から対称性を獲得するというのが大きな目標です。対称性の確保という命題を形成外科のわれわれは一つの絶対目標としているわけです。正常と思われている人でも、この人たちは少し非対称です。両脇の人は顔面神経頰枝の不全麻痺ですね。中央の人は下顎縁枝の不全麻痺ですが、見慣れているせいかそんなに違和感はありません。しかし、よく見ると変だなと感じたりする時もあるかもしれないですね。

結論としては「美しさ」の要素の中に対称的であるということも大きな要素であることは言えそうです。

ところが文化が違うと考え方が異なってきます。スライドはゴールドントライアングルといわれる場所に住んでいる首長族、中国の纏足、私たちとしては違和感があると思いますが、この人たちは、これが望ましいと思っている訳です。

写真は知花くららさんです。ミスユニバース3位だった方です。右の人は森理世さん。ミスユニバース1位です。私は知花さんのほうが美しいと思いますが、ミスユニバース審査の世界では森さんが上ということなのでしょう。

ニーチェの説です。人間の感情には2つの方向があるということで、左はアポロン、ゼウスと正妻で

あるヘラの子ともです。右はディオニュソス、ゼウスの浮気相手セメレイの子です。ローマ時代ではバックスと名前を変えて、愛と酒の神様になるようです。つまりアポロンの：知的で静的で調和的な造形。ディオニュソスの：陶酔的で創造的で激情的な造形。われわれの頭の中には、こういう2つの方向性があるんだというふうに、ニーチェは言っています。形成外科の恩師である鬼塚先生と美容外科の恩師である高須先生みたいな感じかもしれませんね。

具体的にみるとこの方はアポロンの美人ですね。右はディオニュソス的な美人ともいえるのではないのでしょうか。

つまり、われわれの理想とする美にもいくつかの方向性があるということです。正当派の美しさと、個性的ともいえる美しさというのが、あるのではないのでしょうか。さらに、この方は日本の典型的な美人ですね。歳を取っても結構きれいです。ところが、この白人は若い頃、全盛期と美しさが増していますが、現在の状態では劣化が激しく、同じ美人でもすでに美しいとは言えなくなっています。そこで、若いということも1つの美しさの要素らしいと思われる。

このスライドは高松塚古墳の美人画です。次は江戸時代、長崎の出島の風景です。オランダ人や中国人がいます。当時の接待を仕事とする女性に言わせると、西洋人よりは中国人のほうが評判が良かったようです。

ところが、次は第2次大戦前の美人である松井須磨子さんです。このような目鼻立ちのはっきりしないような人が美人と思われていたようです。終戦直後の代用的美人は原節子さん、目鼻立ちが派手で、いわゆるバタ臭い感じの人が流行ってくる訳です。

さらに時代が新しくなって、アメリカへのあこがれが増してくるとゴールデンハーフのようないわゆるハーフ顔がもてはやされるようになります。さらに1990年代では、韓流で韓国人の人気が増します。さらに時間が経つと、今度は中国人がいいというようになってきたり、最近では、東南アジアにも人気が出てきている訳です。個人的には、経済発展とかなり関係があるんじゃないかなと思っています。「美しさ」は時代とともに変わる。リスペクトする方向で、微妙に移り変わってくるのではないかと思われるのです。

もう一つの例を示します。写真は飯島直子さんです。デビュー当時、安室奈美恵ちゃんがまだ世に出ない頃の眉毛の太さに注目します。かなり太眉です。安室ちゃんが出てくると、飯島直子さんも眉毛が細くなるんですね。それから今では普通と思われる太さに戻っています。一説によると、眉毛が細くなるほど、経済の状況がいいんだってという話もあります。バブルのころ、眉毛はかなり細かったと記憶しています。

これはダイアナ妃の写真です。若いころ、結婚する直前、結婚した直後、皇太子妃として活躍していたころ、亡くなる直前の比較です。同じ人でどうしてこんなに変わるんだらうというふうに思います。さらに拒食症の人は痩せていても、鏡に映った自分の姿を肥満体だと感じますし、マイケルジャクソンのように醜形恐怖の人は顎と鼻の手術を繰り返し、最終的には死んでしまうというような極端な例もあります。

このスライドは韓国人。右はアメリカ人ですね。韓国人は頬骨が張っていて嫌だから頬骨をへこませる。アメリカ人は頬骨が張っていないので逆に注射やプロテーゼで大きくする。国柄で全く違う方向に美しさを求めているのです。内面的なあるいは主観的な感情、人種、国の違いも「美しさ」の考え方に大きく影響しているんだというふうに思われます。

ちょっと話が変わります。ロボット工学では「不気味の谷」という概念があります。非人間が人間的なものに動いて行く時に、妙に気持ち悪い瞬間があるというのです。非人間が人間的になるにしたがって親近感が増してくるが、ほぼ人間的になる直前に嫌悪感を生ずるというものです。美容外科の手術を繰り返している人を他人が見ると違和感を持つのが、この辺の理由によるのではないのでしょうか。また、不思議なことに、人間ではそういう感情がわきますが、犬や猫の非人間にはそういう感情が生じないといわれています。

このように「美しさ」というのは、良いこと、感動を与える、優れたこと。最終的には主観が少なからず影響する訳です。人は自分自身の頭で考えますので、他とは決定的に相いれない壁があります。従って、一義的な定義は難しいという、わかったようなわからないような結論になりました。

後半に移ります。私は口唇口蓋裂の治療を主に

やってきました。入局当時から鬼塚先生は立派な先生で、日本で有数の形成外科医でした。その中でも弟子としてさらに手術成績を向上させたかったことがいくつかありました。一つ目は言語成績です。当時は、初回の手術成績が口蓋裂全体で、良好 85%、ほぼ良好 10%、不良 5% ぐらいでした。それをさらに向上させる努力をしてきました。

二つ目は顎発育抑制の低減です。口蓋裂児の多くは反対咬合になります。いわゆる受け口になるのです。その割合をぜひ減らしたかった。それから美しく機能的な、先ほどありましたような、咬み合わせも同様に改善したかった。三つめは患者さんへの肉体的、精神的な負担を軽減する。手術回数をなるべく減らしてもよい成績を上げるようにしてきました。

また、一番最初からしたかったのに、機会がなく、最近やり始めたことがあります。なるべく早期に形態、言語、咬み合わせも、全部完成させようという試みです。

初めから説明します。昔の典型的な方法は Wardill 法という方法で、今でも日本では半分以上の方がこれをやっていると思います。入局から 5 年間ぐらいはこれですとやってきました。85 年ぐらいからは顎発育も考えて、Perko 法という方法に変えました。顎発育抑制は軽減されましたが、言語成績が若干悪くなりました。次に上石法というのに変えました。顎発育はさらに向上しましたが、言語成績はやはり Wardill 法には劣っていました。当時昭和大学以外で採用されていた Kaplan 法、Bardach 法はやらなくて、Furlow 法を 88 年から始めて現在に至っています。これになって、言語成績は 3 割ぐらい良好になりました。顎発育もかなり改善しています。一例を示します。88 年に大学病院に戻って初めのころの患者さんです。手術前、直後、6 か月、1 歳、3 歳、6 歳、15 歳、21 歳の最終の状態です。口唇、鼻の形態、咬み合わせもきれいになっています。初回形成術と顎裂部骨移植をやった 2 回だけの手術で終了しています。不全裂なので、誰がやってもこのぐらいの成績にはなるかもしれませんが、指導されずに行った初めての患者さんとしてはよかったですと思っています。

美しく機能的な咬合はできるようになったか？ 1990 年ぐらいから、それまでは行っていなかった腸骨の海綿骨を顎裂に移植するようになりました。

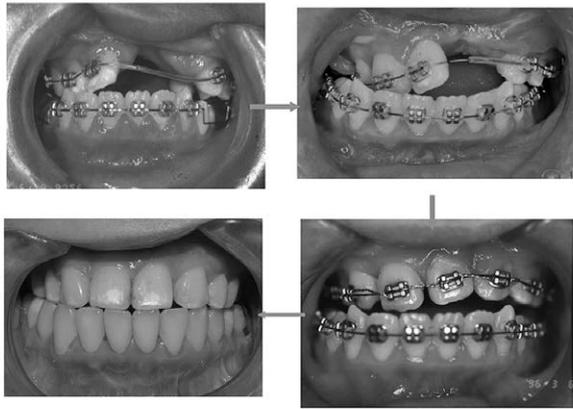


図 3

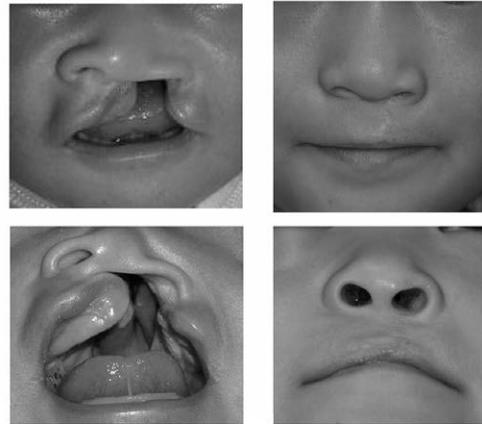


図 4

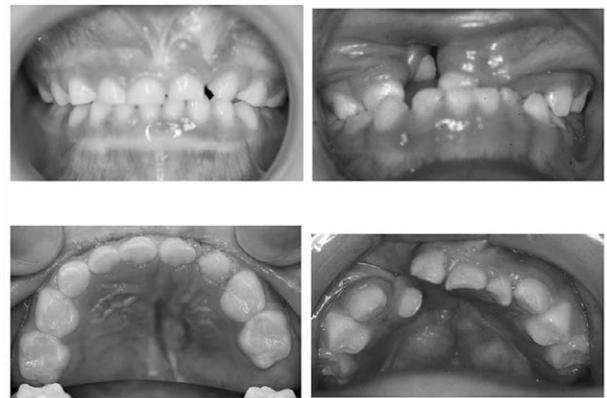
そうすると、3か月過ぎくらいに移植骨が上顎骨に変わって、歯もきれいに並ぶということがわかりました。

レントゲンは顎裂に歯が生えてきたことを示します。顎裂に骨移植をしなかった時代は歯を何本も削って、大きなブリッジを入れて、咬み合わせを作っていましたが、今ではうまく顎裂部骨移植すると、人工歯根を移植することで咬み合わせを作ることができます。

これは骨移植を始めて間もなくの症例です。14歳の女子で、こんなに顎裂が広い患者さんでも骨移植、歯科矯正、外科的顎矯正（上下顎骨切り）後、21歳の完成時できれいな咬合を完成することができました。この患者さんは自分の歯だけで歯並びがきれいにできています（図3）。

両側裂で垂直的に歯並びの悪い子には、骨移植の時に同時に中間顎を骨切りすることで咬合を改善することが可能です。

患者さんの負担は軽減したでしょうか。最後の課題です。このように完全裂で広い顎裂があっても、初回形成術では鼻が変形していても、骨移植と同時に修正するとかなり良好な結果となります。初回手術で生じてしまった瘻孔の閉鎖です。こんな大きな瘻孔があると、かつては舌弁と言って舌をここに移植して閉鎖していました。この方法では入院期間が倍になるうえに、舌と口蓋を1週間着けたままにする必要があり、患者さんにとっては大変辛い方法です。そこで、口蓋の島状皮弁を前方に戻して閉鎖する方法を考えました。舌の移植をしなくても一回の手術



最新の症例

過去の症例

図 5

で済むようになりました。また瘻孔閉鎖と同時に骨移植をすることも可能です。

機能的な改善については、鼻中隔彎曲を矯正しながら、鼻形態の修正を行うことをしました。形態改善とともに鼻腔通気の改善が可能になりました。外科的顎矯正では過去の例より手術時間の短縮と、大幅な出血量の軽減を得られるようになったと思います。

最後に、術前矯正と初回顎裂形成です。早期から咬み合わせを直したいということで、私が入局する前からでも、McNeil床とかHotz床という方法がありました。昭和大学ではあまり積極的ではありませんでした。最近になってNAM (nasopalveolar molding) という方法が開発され、鼻と歯槽を両方矯正することができます。ニューヨーク大学から戻った矯正の先生が導入してくれた方法です。スライドはその第一症例で、多分本邦での一例目と思

ます。かなりうまくいった症例です。歯も生えてきて、骨移植しなくても良好な歯並びになっています(図4, 5)。

以前の典型例と比較します。歯槽の内側に歯が生えていて、反対咬合です。両方とも4歳の時の所見ですが、最初から術前矯正と歯肉形成を行った方では、きれいな歯並びになることがわかります。

最後に、達成したことのまとめです。言語成績の向上は達成したか。初めから良好でしたので、やや達成したことになります。それから、顎発育抑制の低減(低侵襲手術の開発)できたか。これはかなり達成したと思っています。患児への、手術の回数減らして良好な形態を得たか。まあ、そこそこ達成したというふうに思っています。最後の術前矯正と初回顎裂形成に関しては、残念ながら道半ばで、今後の検証を待たなければなりません。後輩に託したい

と思っています。

口演を終えるにあたり、恩師と先輩、コ・メディカル、後輩のみなさんに感謝します。どうもありがとうございました。

○司会 ありがとうございます。記念の楯を小川医学部長より贈呈いたします。小川医学部長、贈呈と共に大久保先生へ一言お願いいたします。

○小川 大久保先生、ほんとうに美という事を学ばせていただきましてありがとうございました。今までの業績をご披露いただきました。大久保先生の形成外科の卓越した技術は、みなさんの知る所でございます。また今後も、特任教授として口唇口蓋裂センター長も兼ねていただいて、さらに後進の指導もしていただけるということです。大久保先生のますますのご発展をお祈りいたします。ほんとうにありがとうございました。